

第2回 生活部会 報告書

令7年7月24日

開催日時	令和7年7月24日(木)14:00～	場 所	千曲市ふれあい福祉センター 四階会議室
部 会 員	稲荷山太陽の園/ともいきライフ月影/いなりやま福祉会はなたば/いなりやま福祉会グループホーム/風ととくべえ/地域生活支援センターCoCoちくま/スタジオCoCo/しののい福祉会ボスケット/歩夢ヘルパーステーション/坂城町社協 訪問介護事業所/坂城町社会福祉協議会/カラフル相談室/千曲・坂城障がい者(児)基幹相談支援センター/坂城町福祉健康課/千曲市福祉課/外部参加(8名)		
			出席 27名

(1) 報告事項、ほか

特になし。

(2) 協議事項 および 内容

◆研修会について

社会福祉法人りんどう信濃会はらむら悠生寮の室長である奥山隆生氏を講師に招き、『個別支援計画に基づく支援の統一について』をテーマにご講演いただいた。講演会は全2回であり、2回目は次回生活部会にて行われる。今回の講演会内容については「別紙詳細」を参照。

(3) 結果

予定した内容はすべて完了した。

地域連絡会で検討したい課題【特になし】

(4) その他（お知らせ・次回開催日など）

- ・5/28に運営委員会が、6/11に地域連絡会が開催された。
- ・事業所ガイドブックについて、順次配布中である。
- ・全体会について12/13(土)に行う予定。
- ・集中支援事業について、8/8に各事業所向けの説明会を県から行う。
- ・第3回生活部会(研修会)は、9月12日(金)14時から。

<別紙詳細>

(5) 協議内容（詳細）

◆研修会内容（以下簡単にまとめる。）

①チームで支援する必要性

支援が統一されていないと利用者の混乱を招いてしまう。そのため、利用者の特性・配慮すべきことなどの情報を共有し支援を統一していくことが大切である。

②組織運営の大切さ

一つの事業所をチームとして考える。それぞれのチームが機能していなければ統一した支援は提供できない。反対にチームが機能すると、風通しが良くなり支援の質を高めることに繋がる。そのため、それぞれのチームのチーム力、組織力を高めていく必要がある。

③連携のかたち

連携者には、相談支援専門員やサービス管理責任者、支援員がおり、それぞれの役割を担っている。また、サービス計画書や個別支援計画、支援手順書によってチーム内で情報共有し連携を図る。

④基本となる指針・基準を設ける

利用者の困りごと解消や夢の実現のため、支援の指針となる目標を設定することが大切である。本人の意思をくみ取った目標でなければならないが、支援者の思い込みや意思によって設定してしまわないよう注意が必要である。また、実際にアセスメントの内容や目標設定が誤っていたり、PDCAサイクルが回っていないという現実もあり、今一度支援の指針を見返していく必要がある。

⑤グループワークⅠ

グループに分かれ、持参してきた個別支援計画を見返しながら意見交換を行った。「目標を設定するにあたり、本人の希望が見えづらい」「短期・長期目標に関して、達成できず同じ目標になってしまう。目標を下げるにも、どのように下げればよいか分からない」といった意見が発表された。

⑥支援の実施と記録

支援はPDCAサイクルを回しながら行っていく。その中でもC（チェック）では記録を振り返り、その人の支援にしているのか確認しているため、具体的な記録を残すことが大切である。

⑦連携に必要なスキル

組織が大きくなればなるほど連携の際にコミュニケーションの重要性は高まる。相手に「伝えた」ということと「伝わった」とことでは異なり、真に理解してもらうことが大切である。

⑧グループワークⅡ

グループに分かれ、これまでの連携場面で困ったことの意見交換を行った。「複数の事業所を利用していると、支援方法に差異が出てしまい細かな支援方法の連携が難しい」「介護保険へ移行する際、外部との連携が増えて情報の行き違いが生じる」「医療と福祉の現場間で支援の考え方に違いがある」「職員間で意識の違いがあり、相談しづらいことがある」といった意見が発表された。